

邸宅保存活用計画の策定に向けた検討

邸宅の保存活用を検討する上での価値について

邸宅の保存及び活用のあり方を検討していく上で、邸宅及び邸宅の敷地が有する特性など客観的な事項について整理し、認識を共有する。

明治記念大磯邸園基本計画及び邸宅の調査結果より、上記事項を「建築」及び「その他」の観点から“価値”として整理し、当該価値を踏まえ、保存活用の方針や公開活用の区域区分等の検討を進めることとする。

■ 建築的価値

邸宅が有する歴史や、建築年代、建築技術、構造、使用されている部材など建築的観点から、邸宅が有する特性を整理。

■ その他の価値

邸宅が立地する敷地の歴史、景観、環境面等の観点から、邸宅を取り巻く特性を整理。

建築的価値

旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）

本邸宅は、伊藤博文が本邸としていた場に、伊藤から譲り受けた李王家によって建てられたものであり、大磯に唯一残る位の高い人物の建築物である。

シンメトリックな外観の洋室と和室とを併せ持ち、関東大震災後の耐震性に配慮したと考えられる構造など大正期の建築技術を今に伝え、現存する李王家の建築物として価値がある。



南側の主要室(洋室)の外観

出典：大磯教育委員会『大磯のすまい』.1992

西園寺公望別邸・旧池田成彬邸

本邸宅は、西園寺公望が別邸としていた場に、西園寺から譲り受けた池田成彬によって建てられたものであり、チューダー朝英国風で、漆喰の壁に木のフレームが印象的なハーフティンバー様式の意匠を採用するなど本格的な洋館建築である。

西洋の生活様式を取り入れた間取りや、耐震性に配慮したと考えられる構造など昭和初期の建築技術を今に伝える建築物として価値がある。



池田邸 庭園（年代不明）

出典：中條建築事務所『曾禰達蔵・中條精一郎建築事務所作品集』池田氏大磯別邸.1939

旧大隈重信別邸・旧古河別邸

本邸宅は、明治期に大隈重信が別邸としていたものを古河市兵衛が購入したもので、一部増改築がなされているものの、主要構造等が残されていると推定される。

神代杉等の厳選された良質材が各所に使用された建築物であり、かつ、大隈が利用していたものが現存している点で価値がある。



旧大隈別邸・旧古河別邸 神代の間外観
(2018年撮影)

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

本邸宅は、陸奥宗光が別邸としていた場に、陸奥から譲り受けた古河虎之助が、関東大震災後に改築したもので、一部増改築がなされているものの、大正・昭和初期の姿を留めている。

海浜での遊楽に配慮したつくりや、瀟洒で静閑な数寄屋風の佇まいは、大正・昭和初期の上流階層の別荘建築として価値がある。



陸奥別邸跡・旧古河別邸 外観
(2018年撮影)

その他の価値

- 本邸園は、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文をはじめ、大隈重信、西園寺公望及び陸奥宗光という立憲政治の確立等に重要な役割を果たした「人物」にゆかりのある邸宅が、集中して残されている希有な場である。
- 建築当時の建築技術の粋を集めた邸宅に加え、白砂青松の景観を活かした庭園、こゆるぎの浜辺や東海道の松並木等の歴史的景観が一体となって、積層する歴史を今日に伝える佇まい（風致）を遺しており、湘南の邸園文化を象徴する歴史的遺産となっている。

■風致を構成する要素

